

乙氏へのリプライ

木下衆

大変丁寧なコメントを寄せてくださり、ありがとうございます。一部乙さまの期待される水準に達しない点もあったようですが、最後には温かいお言葉をいただきまして、感謝申し上げます。

以下、個別の論点について、回答申し上げます。

○ タイトルについて

・ 論文の日本語タイトルについて

私はこのタイトルに、いくつかのキーワードを含めたいと考えていました。「家族介護」、「認知症」、「構築主義」、「カテゴリー」などです。しかし、すべての要素を網羅することはできません。そこで、分析の対象、すなわち構築の主体になっている人々に注目して主題をたて、彼らの行為のどういう側面に注目するのかが副題をたてました。

本稿では構築の主体を「要介護者を介護する家族」、すなわち「介護者」と定義しました。その意味で、本稿のタイトルを分析対象に即して厳密につけるのであれば、「介護者による『認知症』の構築」となるでしょう。しかしこれでは検索時、たとえば「専門職による介護」を指しているのか、「家族による介護」を指しているのか、わかりません。よって、「家族による」としています。

加えて、タイトルだけではわかりにくい本稿の議論の対象などは、「要約」に含めました。

乙氏は、主体に注目するのならば、「家族」ではなく「家族会の先輩たち」、あるいは場面に注目するのならば、「家族会場面」や「診療場面」というタイトルの方が適切ではないか、と指摘されました。

しかし本稿は、「家族会の先輩たち」が「後輩」の解釈を修正していく議論ではなく、特に「先輩後輩」関係に分析の主眼をおいていません。また本稿で引用した事例は、家族会内でのやり取りや、インタビュー場面から、医師による診察や家庭内での出来事などに関する回顧的語りを取り上げ、分析しています。つまり、「家族会場面」、「診療場面」といった場面に限定した分析を展開していません。

本稿は、冒頭で説明しました思考にそって日本語題をつけており、特に修正する必要はないと考えています。ただし、社会福祉学や看護の分野では、「介護家族」という表現もあるそうなので、「介護家族による『認知症』の構築」という主題への変更も検討したいと思います¹。この点について、ご意見をいただけたらと思います。

¹ この様なコメントリプライを用意したのは、研究会の当日、会場に査読者乙氏が来場し、直接やり取りする機会があるだろうと期待してのことである。当日フロアからのコメントでも指摘を受けたが、通常の査読でこのような投稿者から査読者への呼びかけはなされない。その点については、留意してもらいたい。

・ 論文の英語タイトルについて

英語のタイトルですが、私はこれにも、いくつかの要素を含めたいと考えていました。”Social Construction”, “Dementia”, “Family Carer” …などです。しかし、繰り返しくなりませんが、すべての要素を網羅することはできません。

主題は日本語の直訳となっていますが、副題、”Dementia as Category in Action” は、成員性カテゴリー分析 (MCA) の論集、”Culture in Action” になぞらえました。”Culture in Action” は、人々がさまざまなカテゴリーを使用する中で、行為の意味づけや、ふるまいの選択肢が決まってくること、まさにカテゴリーが”in action” (作動中/動いている) であるという議論です。私は、その ”in action” という表現に込められた意味に触発されたため、副題に”Dementia as Category in Action” とつけました。

また、この副題だけではわかりにくい側面、たとえば「認知症というカテゴリー」の本稿における用語法は、英文要旨を併読すると分かるように構成しています (In this paper, I would like to examine “Dementia” as the category, which indicates “Who” and “How to remedy troubles about care.”)。

よって、特に英文タイトルを修正する必要はないと考えています。

○ 事例 2) の提示の仕方について

私は事例 2 を、「介護者の感情が要介護者に鏡写しになっている」(と介護者がとらえる) という「鏡のメタファー」(井口 2007) の一例としてあげました。

しかし乙氏より、このデータの提示の仕方に疑問を示されました。一言でいえば、M さんの最後の発言の「私ら」と「私ら健常者」が意味するものが異なるということが、わかりにくいのではないかと、というご指摘と理解しました。そこで事例 2 の引用中、ゴシック体の部分を補足しました。

例 2) 家族会 V で、認知症の夫を介護中の L さん (70 代) が相談している場面

(前略) メンバーの M さん (60 代・女性) は、たまの外出で不安だったのは夫ではなく、むしろ L さんの方だろうと指摘した。夫の「不安そうな顔」は、L さんのちょっとした「不安そうな顔」を感じ取って、夫が見せたに違いない。

M さんはさらに続けた。「私ら (= 介護者と要介護者) が、鏡みたいになってるんですよ。私ら健常者にしたら何でもないことが、向こうにしたら、ものすごい不安になるんですよ。」 (Field note 09.2.17)

○ 誤植と思われる部分、あるいは、訂正が検討されてよいと思われる部分について

以下のように修正しました。

(1) 2頁2行目

「～高齢者」と、

回答：「『～高齢者』として、」に改めました。

(2) 4頁21行目

「昔から口が他者」

回答：「昔から口が達者」に改めました。

(3) 5頁16行目

介護者に帰責させている

回答：「介護者にトラブルの原因を求めている」に改めました。

(4) 6頁4行目

原因が想定

回答：「別の原因が求められる」に改めました。

(5) 12頁10行目

強い責任

回答：「重い責任」に改めました。